

東北水域復興支援義援金活動にご協力有難うございました。

京都府セーリング連盟では、J S A Fの東北地方支援募金活動に同調して、被害に遭われた方々や水域の復興に向けての支援を続ける方を応援する為の募金をお願い致しました処、皆様方から暖かいご協力を賜りました事に衷心より御礼申し上げます。

ご協力賜りました3団体、役員及びメンバー5名、並びに理事総会や事業に於ける義援金BOXに常任理事や理事及びメンバー十数名からお寄せ頂きました義援金15万円をJ S A Fの義援金窓口にお届け致しました事をご報告致します。

3月11日発災2日後のJ S A F評議員会にて「お悔やみとお見舞い並びに今後の復興も含めて最大限の協力と努力すること」を満場一致で決議され、直ちに「東北地方支援金を募り用途は地元と相談の上検討する」とした活動が始められ、文書通達を受けました。

府連では、基本的事項の確認に手間取り、40日後の4月常任理事会にて募金活動を行うこととして、翌日ホームページに掲載し、加盟登録団体へご案内・連絡を致しましたが、既に直接J S A F義援活動にご協力されておられる団体及び個人の方や宮津水域では、宮津市体育協会への義援活動に協力されておられる事を伺い、幅広く支援の輪が広がっている事を実感いたしました。

4月27日に宮城県セーリング連盟にお見舞いのメールを致しました処、庄司理事長からは次のようなお礼の返信を頂きました。

- * 宮城県ヨット基地の気仙沼、石巻、松島、七ヶ浜町、名取市の惨状はショックで霊場へ入る気分になり、ご遺体が残る中でヨットの話をする事を躊躇させられる。
- * その様な中で国体、インターハイ、インカレともに何とか東北、宮城の元気な姿を知らせたい。
- * 岩手、宮城、福島は戦後にタイムスリップした様な状況だが、当時と大きく違うのは「全国のセーラーから絶大な支援を得られる」という状況です。
- * 元に戻るには、今後数年いや十年と言う歳月が必要と思われるが着実に前へ進めて行きたい。引き続きご支援を宜しくお願いいたします。

と言う内容でありました。

支援は今回だけのものでなく継続する事が重要であり、個人やクラブ、県連だけがよければよいと言う小市民主義的考えでなく日本セーリング界の発展を願って府連は進みたい。

J S A Fでは、今回の震災復興支援活動の一環として「フラッグ、ステッカー掲揚キャンペーン」を展開していますが、フラッグ、ステッカーを継続的に掲揚する事で常に記憶を呼び起こし持続的な支援と連帯を強めることとなります。

京都府連としては主旨に賛同して一括申し込みを致しましたので、皆様方にご購入を頂きますようご協力お願い致します。

5月21日のJ S A F会合で高橋東北セーリング協会会長にお見舞いを申し上げ、京大、など水域の状況も伝えられました。又、J S A F義援金合計が1,300万円となり、一般義援金では届かない直接支援に感謝の言葉がありました。

皆様方の支援活動への心暖たまるご協力に重ねて感謝申し上げます。

中山 明